

令和5年度 中町北小学校 学校評価シート 2024.3.4

学校教育目標

人権尊重の心を持ち
仲間とともに 意欲的に学ぶ

<学校自己評価>

A:達成している
B:概ね達成している
C:あまり達成していない

・4.0 → 100%達成
・3.6 → 90%達成

本年度の重点目標

①確かな学力の育成・・・「中北学力向上プラン」「中北スタンダード」の活用 ②豊かな心の育成・・・「命と人権」の尊重を根底に、いじめ防止基本方針をもとに、いじめの未然防止・早期発見・早期対応 ③健やかな体の育成・・・「早寝・早起き・朝ご飯」、「基本的な生活習慣」の確立 ④信頼される開かれた学校づくり・・・PDCAサイクルによる学校評価の活用 ⑤安全・安心な学校づくり・・・学校防災体制の充実 ⑥働きやすい職場環境づくり・・・「学校の働き方改革」の推進による子どもと向

	評価の領域	項目	教職員済み	児童済み	保護者済み	総合 評価	アンケート分析（R5）		学校関係者評価（R5）		
							○：考察（今年度の取組と分析）	◎：来年度へ向けての改善案（方策）	コメント		
ア	学校組織・運営	教育目標の推進 組織・チーム	4(±0)			A	○それぞれの教職員のよさをお互いに学び合う姿勢があり、全職員で情報を共有できる風土により、チームとして働きやすい環境ができている。それによって、児童への対応も一人で抱え込まず、多くの意見を参考に進めることができています。 ○校務分掌については、年間計画を立て教育目標の具現化を図ることができた。一人一人の得意とする専門性と同僚性を生かした分掌・職務の遂行ができた。経験のある教職員がリーダーシップを発揮し、分掌を引継ぎながら、遂行することができた。 ○歌謡伎クラブを開いたことで、来年度の教育課程を大きく見直し、勤務時間の適正化を図るチャンスである。	◎様々な課題をもつ児童がたくさんいるので、その分人手が必要である。学校内外の連携を継続し、さらに強くしていきたい。 ◎来年度には、分掌の内容を吟味し担当者配置することや、負担が大きい分掌は、担当者を複数配置することにより、負担を分けるようにしたい。 ◎学校教育目標の児童像を達成するために、行事や授業の改善を進めるとともに勤務の適正化について学校改革推進委員会を開催する。	・教職員のメンタルヘルスはされているのか。保護者からの対応も大変だと思うが、先生たちの心のフォローやケアも大切なと感じる。 ・自分の意思でやりがいのある職場であってほしい。子どもたちも先生方も窮屈なのではないか。保護者と教師との間に、どのようなギャップがあるのか。働きがいのある改革にしてほしい。 ・運動会の開催時期など、PTAと率直の意見を出し合える関係にあると感じている。		
		校務分掌の適切な分担と 職務の遂行	3.5(+0.1)								
		勤務時間の適正化	3(+0.2)								
イ	学級経営	学級経営案・その他の経営案	3.2(±0)			B	○経営案を作成したことで、見直しを持って取り組めた。 ○経営案をもとに学級経営交流会を持ち、互いの方針を情報交換したので、児童への指導においても生かすことができた。また年度末には1年間の学級経営について振り返り、全体で共有し、次年度へつなぐことができた。	◎学級経営案を作成し、見直しをもって学級経営に取り組む。 ◎学級経営交流会を行う。単学級なので、年度途中に情報交換をし、実践に生かしていく。また、年度末には1年間の学級経営について振り返り、全体で共有する。	・楽しく学校に通えている。学校側が目標も立て、中間検証もしていただいていたありがたいと感じた。 ・欠席が多い児童、外からだだと数字からしか見えない部分もある。子どもたちが楽しく通えているのが一番ありがたい。		
ウ	特別支援 教育	専門家との連携 対象児童への指導・支援の改善	3.2(+0.2)			B	○校内研修会に外部の講師を招聘し、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童の支援について理解を深めることができた。 ○特別支援学級担任と交流学級担任が連携し、児童の実態に合わせ柔軟に教育課程を組むことができた。	◎北はりま特別支援学校等外部の専門機関と連携して、児童の障害特性に起因する困り感等を正確に把握し、効果的な支援を行っていく。（回数を増やす。） ◎夏季休業等、校内研修会に講師を招聘し、教員の専門性を高めていく。 ◎日常的に全教職員の情報交換の場を設け、共通理解のもと児童の支援にあたるようにする。	・不登校、特別支援、難しいと思う。大人は「学校行けばいいじゃないか」と簡単に言うが、子どもにとってはそんな簡単なことではないと思う。端から見たら普通に見えるが、自分のしたいことしか見えていない、そんな子もいる。一緒に暮らしていても気づきにくく、分りにくく、理解が難しいのに、他人ならなおさら。学校では、個々に対応が違う、その大変さを痛感する。		
エ	学力向上	分かる授業づくり	3.2(-0.5)	3.6(±0)	3.7(+0.1)	A	○「わかった！できた！から自ら学ぶ姿へ」を研究テーマに、めざす子ども像である「自ら学ぶ子」とは具体的にどのようなことができる子かを教職員で共有し、実践を積み重ねてきた。また今年度より「多可町授業づくりの10ポイント」を活用しながら授業づくりに取り組んできたが、まだ手探りの部分がある。来年度につなきたい。 ○朝学習の取組や家庭学習等の継続した取組の結果、基礎基本の学力が定着してきている。 ○家庭学習ががんばり週間では、学習時間のクラス平均が目標時間（15分×学年）を全学年達成できた。	◎さらに「自ら学ぶ子」を目指して、これまでの取組（「多可町10ポイント」を活用した授業づくり・基礎基本の定着をめざした取組・家庭学習の取組など）を教職員で共有し、学び合いながら継続していく。	・家庭学習ががんばり週間、児童や保護者の意識付けのためにとてもよい取組だと思う。 ・楽しく学校に通っていただければいいと思う。 ・町外に出て行く子どもたちは、都会の子たちと勝負をしなければならない。学力社会ではないといいつつも、都会で育った子どもたちと、上下関係や格差が出てきたらどうなのかな、と思ったりもする。 →多可町の学力調査の結果はお知らせしているとおりです。特に格差はありません。		
		基礎基本の学力の定着	3.3(-0.1)								
		家庭学習記録票の活用 家庭学習の習慣化	3.3(-0.4)	3.7(+0.1)	3.1(-0.1)						
オ	健康教育	食育の推進 児童への指導、保護者への啓発 アレルギー対応	2.8(-0.3)	3.8(±0)	3.7(±0)	B	○健康委員会の児童とともに、給食時の服装や片付けの仕方など、衛生面に気をつけるよう声かけができた。 ○大雨警報で、今年度も給食試食会が実施できず、保護者への啓発が難しかった。 ○複数の担当がいたため、年度当初に、行事ごとに担当をわりふって、連携を図りながら取り組んだ。 ○体力向上のため、リズムジャンプや縄跳びなどの指導法について、教員に体育通信を発行した。 ○運動場のポイントを必要最低限に考えながら一新し、環境を整えた。	◎給食センターと連携し、学校だけでなく家庭でもできる食育の取組を考えていきたい。 ◎健康委員会の児童とともに、給食時の衛生面に関する指導を継続していく。 ◎感染症対策や熱中症対策など、マンネリ化しないよう意識して、健康安全対策を行っていきたい。 ◎定期的に体育通信を発行し、教員や指導法等の共通理解に努めたい。 ◎体力アップサポーター事業を活用し、外部講師による専門的な指導により、体力アップを図りたい。	・事故があったこと（うすらの卵）を子どもたちに伝えて、気をつけてよくかんで食べよう、そんな指導を行うなど、ウスラの卵を出さないようにする、という方法ではなく、何かあったときの対応（職員の応急措置対応の研修）や、子ども達への指導も必要。		
		健康安全対策	3.4(-0.2)								
		運動能力・ 体力向上の取組の充実	3.2(-0.6)	3.6(±0)	3.2(-0.2)						
カ	図書館教育	児童の読書量増進の 指導や手立て	3.2(-0.4)	3.2(+0.1)	2.3(-0.1)	A	○読み聞かせ（教師、図書委員）を行い、様々な本に触れるきっかけづくりとした。 ○図書館アドバイザーや図書館ボランティアの方々図書室の環境づくりをしてくださったおかげで、居心地のよい空間となった。またアドバイザーには読み聞かせしてもらい、児童が本に親しむことができた。 ○多可町図書館との連携により、学習とリンクした本を設置できている。隙間時間に本を手にとる児童が増えている。 ○家庭における読書活動推進のためには、保護者への啓発が必要不可欠である。継続的な啓発が望まれる。	◎啓発活動を行っていく。（図書委員会によるスタンプラリー、読み聞かせ、本の紹介） ◎教師による読み聞かせの機会を、来年度も設定したい。 ◎図書館や図書ボランティアの方々との連携を継続していく。 ◎図書室の環境調整を行うとともに、各教室で本が読めるよう読書環境作りを意識する。 ◎図書室の開放と、それを継続させるために継続的に指導を行っていく。	・隙間時間に本に触れる。多可町図書館との連携によって、本を手取る環境ができているのはとてもいいと思う。 ・親がよんでいると、子どもも読んでいる。保護者への啓発が必要である。 ・図書室の利用、増えている。 ・色々手厚い対策をとっていただいているので、よい評価でいいと思う。 ・保護者の評価の低さは、家庭で本に触れられていないと感じるからかも。 →学校では多くの児童が隙間時間に本を手にとって読んでいます。また、タブレットでも読書ができるようになっており、これからもっと読む児童が増えると思います。		
キ	特別活動	年間を通した 学校行事での成果	3.6(-0.3)	3.7(+0.1)	3.4(±0)	A	○各行事において教師と児童が目標やめあてを共有し、確認しながら実施できていた。そのため、児童が真剣に取り組む、活躍できる場となっていた。 ○児童会によるあいさつやあったかニュース、チャイムスタート、たてわり班遊びなど、児童の呼びかけにより取り組み、満足感を味わえた。	◎行事の意義や効果に価値をおきながら、状況に応じて内容の工夫や精選は状況に応じて引き続き行っていく必要がある。そのために、多くの意見を取り入れながら行事の計画を立案し実施後の反省を行いたい。 ◎二ヶ月に一回ではなく、毎月委員会活動を実施し、児童が自分たちで考え、より自主的・自治的に動ける児童会、委員会となるようにしかけていきたい。	・運動会の運営、6年生中心だったのがよかった。児童の準備を見ていて、保護者としても気持ちがいい物だった。自分の役割をきびきびと取り組んでいる姿をみられるのは嬉しい。		
		児童会・委員会活動	3.2(±0)	3.3(-0.1)							
ク	生活指導	いじめ防止の徹底	3.5(-0.4)	3.7(±0)	3.3(±0)	A	○いじめや問題行動については、迅速な情報共有や複数対応により、個々のケースに応じた細やかな対応ができた。 ○不登校対策では、アセスメントシートを活用して定期的にケース会議を行い、情報共有や個別の支援計画をたてて取り組んだ。 ○「名前を大切に」ということを折に触れて指導し、くん・さんづけで呼ぶ学校文化ができてきている。	◎生徒指導委員会、アイアイタイム、生徒指導台帳を通して、今後も迅速な情報共有を目指す。しかしながら、生活アンケート実施回数の精査をしていく必要がある。 ◎不登校問題について、効果的な支援を短期間でするのは中々難しいことはあるが、アセスメントシートを引き続き活用し、ケース会議を開き、複数者取りによる計画的かつ組織的な取り組みを根強くおこなっていきたい。	・フリースクールは近辺にあるのか。学校が全てではない、他の方法もあるように思う。先生方の負担にもなるのか。 ・学校だけで背負うのではなく、ほのぼの教室のように、いっぱい居場所があれば心が前向きになるのではないかな。 ・「ねっこほっこ」さん、森の中で学習する。畑を作る、何かを作る、そういうのは学校と併用ができて、出席日数になるのなら、保護者へ情報として伝えるのも一つの方法かな。		
		問題行動・不登校への対応	3.5(+0.4)		3.4(±0)						
		あいさつ運動	3.9(+0.1)	3.7(±0)	3.2(±0)						
		言葉づかい	3.6(+0.1)	3.5(+0.1)	2.8(-0.1)						
ケ	情報教育	ICT機器の活用	2.4(-1.1)	3.7(±0)	3.0(-0.2)	C	○年度当初に、クロムブックの使用（時間や場所等）の共通理解事項を全職員で確かめ、足並みをそろえた。 ○年間指導計画はもちろんのこと、情報モラル教材の紹介やプログラミング教育の指導資料を提示し、取り組みやすいようにした。	◎情報モラルやプログラミング教育の時間を確保するため、鼓舞を含めた総合的な学習の時間の在り方を見直していく必要がある。さらに、学習時期を明確にし、呼びかけながら取り組んでいる。 ◎定期的なクロムブックの持ち帰りを行い、日常的な活用を増やしていく。 ◎どの学級においても月1回以上のICT支援員活用に向けた取組を計画し、実行していく。 ◎どの教員も活用や指導ができるように情報教育の研修を取り入れる。	・コロナ以降タブレットを使いこなしている。スクラッチなどもゲーム感覚で行えている。が、情報モラルとしてはどうか。ネットでの批判や情報モラルに関する学習が必要だと感じる。 ・子どもの連絡のやりとりが、LINEが主流。サッカーなどの連絡、携帯をどうするか？という話になる。子ども同士のやり取りをみていると、絵文字を大量に送ったり、22時以降にLINEが来たり送られていたりする。そんなことをしてはいけない、という家庭もあれば、甘めの家庭もあるように感じる。LINEの使い方や、モラルとして扱い方を、家庭としても伝えていくが、学校としても学習する場をもってほしい。 ・約束事を決めるのもよいが、基本的な学習や、使い方の指導を行うことが大事。 ・インターネットは危険が多い。そのような危機感をもって取り組んでほしい。		
		情報モラル	2.4(-0.7)	3.5(±0)	2.9(-0.3)						
コ	人権教育	人権態度の育成、豊かな人間関係、 福祉の心、思いやりの心の育成	3.6(+0.2)	3.7(±0)	3.3(-0.1)	A	○ダンス・アイ・タイムを活用し、福祉の心、思いやりの心を育成する機会が持てた。手話歌を人権集会で発表するなど、子どもたちの学びが学校全体に広めることができた。 ○うれしかっタイムやあいさつ運動、人権集会などの全学的な取組ができた。また、人権作品を制作する過程で人権について考える機会が持てた。 ○生徒指導台帳やアイアイタイム、気になる児童の情報交換が定着している。職員全員で、関わりを持っていこうとする意識が持っている。 ○学校行事や授業など様々な場面でも、自尊感情を高める指導に努めることができた。 ○すまじは学級での学習については、教育委員会の協力が増えた。現在の車山にとっ	◎全学的な取組や全職員での情報共有、個別の関わりは今後も継続していく必要がある。 ◎児童の自尊感情の向上や人権意識を高めていくために、今後も継続して日常的な声かけや授業での学び合いの場面づくりに取り組んでいきたい。また、個々の良いところや、頑張りを認め合う学級づくりを目指したい。 ◎すずかけ学級の事業については、より教育委員会と協力し、人権意識を高めていけるような内容となるよう、計画を立てていく。	・外国人とのつきあい方。外国の方の方が仕事をしっかりされますよ、という話も聞く。多可町の人口が減っていく中で、働き口として多可町を選ぶ外国の人がふえていくのでは。窮屈な思いを子どもたちはしているのではないのか。 ・小学校の時は「和をもって…」だが、大人になると変わるの心配ないところもあるかな。 ・のびのびとすごしてほしいと思う。		
		自尊感情	3.3(-0.2)	3.4(+0.2)	3.4(±0)						
サ	安全・防災教育	安全意識 防災意識 校内の安全点検	3.7(+1.0)		3.4(±0)	A	○校内安全点検の点検場所を、学年暦で月ごとに交代しながら行った。様々な目線から点検箇所を見てチェックをすることができた。 ○引渡訓練でクロムブックを活用し、確実な引き渡しを意識して行うことができた。 ○地震避難訓練では、通行不可を想定して訓練し、状況確認を意識することができた。 ○月に1回、登校指導と下校指導を行い、登下校の状態把握に努めた。通1回のミニ地区児童会で指導を行った。 ○防災・防犯について職員研修を行い、また、警察署の方を講師として招いて防犯訓練を行うことができた。	◎防災に関して、子ども達の自主性を高められるように、防災学習の内容を考えていきたい。 ◎避難意識を高めるため、短縮した避難訓練を定期的に行う。 ◎交通安全教室で登校班で歩行訓練を行う。	・遠方の児童が下校時に一人になってしまう。教師が着いて帰るのも負担だとは思いますが、女の子が一人になったりすると特に心配だ。 ・通学路で危ないところは役場が修繕してくれているので助かっている。 ・登校は保護者の見守りがある。学校によっては下校時間の案内をしているところもある。放送聞いている見守りにでてくれる方もいる。 ・保護者との連携、地域との連携、どちらも考えて見守りができれば本当はいい。 →低学年児童が一人で帰ることがないよう、配慮していきます。		
		登下校状態の把握と指導 安全な登下校	3.5(±0)	3.8(+0.1)	3.5(+0.1)						
シ	環境	環境設備の整理と 環境づくり	3.1(-0.1)		3.4(±0)	B	○教室の床、窓など、修繕箇所が多く、重要性や必要性から修繕を実施している。年度内にできていないところがある。 ○教室や特別教室のデジタル化を進め、学習に集中できる環境づくりを整備している。	◎施設の修繕については、引き続き要望としてあげていく。 ◎各学年で活用したデジタル資料は、必要ときに取り出せるように学校として蓄積・整理していくとともに、学年のデータとして蓄積、伝達できるシステムを作る。	・熱中症予防のミストがもっと設置できればよい。		
ス	保護者との連携	通信やHPでの情報発信	3.9(+0.1)	3.7(+0.2)	3.4(+0.1)	A	○日々の保護者対応には頭が下がる。誠実に対応してもらっていることが、保護者との信頼関係の構築につながっている。 ○保護者アンケートをはじめ、日々の丁寧な連絡などにより、保護者との信頼関係を築いている。	◎HPや学校だより、学年通信などで学校の願いを伝えることを継続していく。 ◎子ども達の姿を保護者と共有できるように丁寧に伝えていく。	・保護者による教師のメンタル崩壊のようなことはないのか。先生の逃げ場がなく、抱え込んでしまうようなことがなければいいなとすごく心配する。どこかで誰かが受け止めてもらえる受け皿があるのかと気になっている。		
		保護者や地域の意見をよく聞く	3.6(-0.4)		3.4(+0.1)						
セ	その他	学校が楽しい		3.5(-0.1)	3.5(±0)	A	○ほとんどの児童、家庭が、学校が楽しいと感じているが、学校が楽しくない・不満足の評価も一定数いる。子どもが困り感を安心感に替えられるよう、丁寧な関係づくりを行っている。	◎学習そのものを楽しもうとする児童の育成を図る。 ◎一生懸命にすることで獲得した学びの喜びやその過程を仲間と楽しむことができるよう教職員も寄り添っていく。	・教師のメンタルヘルスを気にかけてもらえればと思う。連携をとっていただけるのはありがたいが、先生方の心のケアも大切にいただければと思う。 ・北小の校区には、「北小のためなら」と動いてくださる地域の方々は今もいる。		
		学校教育に満足			3.5(±0)						

90%達成の推移（前年度比）R3→R 5→12 7→11 0→2 ※印→質問内容が少し変更

90%達成の推移（前年度比）R4→R 12→7 11→11 2→2